

平成29年度行政事業レビューシート(法務省)

事業名	バイOMETRICSシステムの維持・管理			担当部局庁	入国管理局	作成責任者	
事業開始年度	平成19年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課	総務課長 佐藤 剛	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	出入国管理及び難民認定法			関係する計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> ・未来投資戦略2017 ・観光ビジョン実現プログラム2017 ・「世界一安全な日本」創造戦略 		
主要政策・施策	観光立国			主要経費	その他の事項経費		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人識別情報(バイOMETRICS)システムによる上陸審査の厳格化 国民の生命と安全を脅かすテロリストのほか、偽変造旅券等を利用して繰り返し不法入国する者などの外国人の上陸を未然に防止することを目的とする。 ・自動化ゲートシステムによる出入(帰)国手続の円滑化 出入(帰)国手続の簡素化・迅速化を図り、日本人及び本邦に在留する外国人の利便性の向上に資することを目的とする。 ・当局においては出入国管理行政をより円滑に実施するためにシステム構築・運用をしているところ、本事業は、上陸審査時に活用する個人識別情報(バイOMETRICS)システムの運用に焦点を当てたものである。 						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人識別情報システム 上陸審査時に外国人本人から提供を受けた指紋及び顔写真からなる個人識別情報(バイOMETRICS)を、当局が保有する要注意人物リストと照合することによって、より正確かつ迅速な要注意人物の発見が可能となる。 なお、照合の結果から要注意人物と疑われる者については、慎重審査に付し、入国が認められない人物であることが判明した場合には、退去強制、退去命令を行うこととなる。 ・自動化ゲートシステム 個人識別情報(バイOMETRICS)の事前登録を行った日本人及び一定の要件(再入国許可を受けている等)に該当する外国人については、自動化ゲートの通過時に指紋、顔写真及び旅券情報を提供することにより、一般の出入国審査ブースで入国審査官の審査を受けることなく、通常よりも簡易な手続による出入(帰)国が可能となる。 						
実施方法	直接実施、委託・請負						
予算額・執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求
	予算 の 状 況	当初予算	5,119	4,132	4,183	4,017	
		補正予算	258	1,860	1,918	-	
		前年度から繰越し	-	-	1,516	-	
		翌年度へ繰越し	-	▲ 1,516	-	-	
		予備費等	-	-	-	-	
	計		5,377	4,476	7,617	4,017	0
	執行額		5,357	4,398	7,493		
	執行率(%)		100%	98%	98%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		100%	73%	123%			
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由		
	情報処理業務庁費		4,017				
	-		-				
	-		-				
	-		-				
	計		4,017	0			

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 29年度	目標最終年度 -年度		
	職員一人当たりのシステム 処理件数について、対前年 度比増を目標とする	システム処理件数(年度)/ 入管職員定員数(年度末定 員)	成果実績	件数	7,550	9,050	9,442	-	-		
			目標値	件数	-	-	9,050	9,442	-		
			達成度	%	-	-	104	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	外国人入国者数関係統計										
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 29年度	目標最終年度 -年度		
	自動化ゲートの利用率を前 年度より1.3%増(毎年を目 標値は変動する)	自動化ゲート利用率	成果実績	%	5	6.8	7.9	-	-		
			目標値	%	-	-	7.9	9.2	-		
			達成度	%	-	-	100	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	入国管理局基本資料集及び外国人入国者数関係統計										
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック			
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	上陸申請時における外国人本人(特別永住者や16歳未 満の者等、一部例外を除く)及び自動化ゲートを利用す る日本人からのバイオメトリクス(指紋及び顔写真)の取 得・照合件数	活動実績	件数	16,639,373	22,362,844	25,305,161	-	-			
		当初見込み	件数	17,257,266	23,681,466	24,157,484	27,043,628	-			
単位当たり コスト	算出根拠				単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	(1)バイオメトリクス取得のコスト (執行額/バイオメトリクスの取得・照合件数)			単位当たり コスト	円	322	197	296	149		
			計算式	百万円/ 件数	5,357/ 16,639,373	4,398/ 22,362,844	7,493/ 25,305,161	4,017/ 27,043,628			
単位当たり コスト	算出根拠				単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	(2)(1)のうち自動化ゲート利用のコスト (自動化ゲート分執行額/日本人自動化ゲート利用者 数)			単位当たり コスト	円	126	98	105	118		
			計算式	百万円/ 人	209/ 1,660,826	213/ 2,169,568	271/ 2,592,018	303/ 2,561,016			
政策評価、経済・ 財政再生 アクション・ プログラムとの 関係	政策	出入国の公正な管理(V-12)									
	施策	円滑な出入国審査及び不法滞在者等対策の推進(V-12-(1))									
	測定 指標	定量的指標				単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度
		-	実績値	-	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
-											
改革 項目 (第一階層) KPI (第一階層)	分野:	-									
	KPI (第一階層)				単位	計画開始時 -年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

			項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	我が国では、自国の安全や利益を守りつつ、円滑に外国人を受け入れるなど、公正な出入国管理を図ることが求められているところ、個人識別情報システムの維持・管理は、国民や社会のニーズを反映した事業目的である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	地方自治体、民間等の独自性や主体性が発揮されるべき業務ではない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	当該政策を達成する上で必要不可欠な優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	調達に当たっては、一般競争入札を原則としており、仕様書の作成においては、「法務省における情報システムの整備及び管理に関する基本方針」に基づき、競争性が確保されるよう仕様書を作成しており、かつ一者応札や随意契約となった場合には、CIO補佐官等の知見を活用した原因分析を行うなど調達改善の取組み強化を行っている。
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		有	
		競争性のない随意契約となったものはないか。		有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	本システムが効率的な業務実施のために活用されており、それによって単位当たりコストが大幅に下がっている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	費目・使途は事業目的に即し、真に必要なものに限定している。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	個人識別情報システムの活用実績は、見込みに見合ったものであり、十分に活用している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	同上
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○	システム改修等の検討に当たっての基礎資料として十分に活用している。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-	-
	所管府省名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> 個人識別情報システムは、平成19年11月からシステムを稼働し運用しており、現時点において、安定的な運用がなされている。 自動化ゲート利用者数は、前年に比べて増加しており、有効活用されている。 			
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 個人識別情報システムは、水際対策の徹底に不可欠なものであることから、引き続き、安定的に運用することとする。 			

外部有識者の所見

--	--

行政事業レビュー推進チームの所見

--	--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

--	--

備考

--	--

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	0063	平成24年度	0068	
平成25年度	0077	平成26年度	0064	平成27年度	0061	
平成28年度	0060					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

法務省

7,493百万円

〔 出入国の公正な管理に必要な物品の賃貸借及び役務の契約 〕

【一般競争契約(総合評価)】

A. 日本電気株式会社ほか

7,493百万円

〔 出入国管理業務個人識別情報システム用バイオメトリクス装置等賃貸借ほか 〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.日本電気株式会社			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	雑役務費	個人識別情報システムアプリケーション改修作業等	3,573			
	賃料及び損料	個人識別情報システム装置賃貸借料	3,208			
	備品費	個人識別情報システム用機器購入	179			
	計		6,960	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	日本電気株式会社	7010401022916	個人識別情報システムの心臓部をなすサーバ群の機器に係る賃貸借料	6,961	一般競争契約 (総合評価)	-	-	本システムの開発を担当し、システムの非機能要件を設計したことから、本システムに対する多くの知見を有する事業者が優位となり、一者応札になったものと考えられる。 このため、CIO補佐官等の知見を活用した原因分析を行うなど、調達改善の取組み強化を行っているところ。
2	NECキャピタルソリューション株式会社	8010401021784	個人識別情報システムにおける自動化ゲート機器更新	379	一般競争契約 (総合評価)	-	-	
3	パナソニックシステムネットワークス株式会社	8010005017519	IC旅券対応・出入国審査等旅券自動読取装置等に係る賃貸借料	124	一般競争契約 (総合評価)	-	-	
4	株式会社JECC	2010001033475	TTPシステムの開発に伴う自動化ゲート用追加機器等に係る賃貸借料	30	一般競争契約 (総合評価)	-	-	

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 チェック